

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2019 年度
氏名	永井 貴子	指導教員 (主査)	高橋 稔

論文題目	ジョブインボルブメントとパフォーマンス及び職業性ストレスの関 係にメタ認知が及ぼす影響
------	--

## 本文概要

**【問題】** 現在、日本では働き方改革が進んでいる(厚生労働省, 2018)。しかし生産性よりも仕事や会社に対するコミットメントが重要視されてきた組織においては、その改革は容易ではない。コミットメントの中でも、以前より高い関心が示されてきた概念にジョブインボルブメントがある。ジョブインボルブメントは職務への没頭の程度を示し、遂行水準や欠勤・離職との有意な関係がみられる(Brown, 1996)。一方、ジョブインボルブメントが高いほど、“ワーク・ファミリー・コンフリクト”が高くなることがわかっている(吉田, 2007)。今後働き方改革が進む中で、限られた労働時間の中で成果を出すことや、仕事以外の生活を含めたキャリア形成を目指すことが求められていくことを考慮すると、今までのようにジョブインボルブメントを高め職務に没頭するだけではない形で、効果的にパフォーマンスをあげられるような変数が必要となってくるのではないかと考えられる。このような背景の下、着目した概念がメタ認知である。教育分野における先行研究では、大学生を対象に、どのように学習した学生が高い成績を収めたのかを調査している。その結果、メタ認知的知識とメタ認知的活動が学習の成果に影響を与えていることを明らかにした。教育領域での研究成果は、産業領域においても応用できるものと考えている。ジョブインボルブメントを適度に保ちながら、仕事のパフォーマンスをあげていくことができる新たな因子を示すことは、会社にとっても個人にとっても非常に重要である。

**【目的】** ジョブインボルブメントとパフォーマンス、及び職業性ストレスの関係に対するメタ認知の影響を明らかにすることを目的とする。さらに、働き方改革推進の中で企業が重要視している「仕事満足度」を加えたモデルについても探索的に検討を行う。

**【方法】** 社会人 250 名に対し以下の項目で質問紙調査を行なった。①フェイスシート②ジョブインボルブメント③仕事場面メタ認知尺度④職業性ストレス⑤仕事のパフォーマンス⑥仕事満足度

**【主な結果】 尺度の検討** ジョブインボルブメント尺度は探索的因子分析の結果 2 因子構造 8 項目となり、それぞれ【仕事熱心】【仕事没頭】とした。仕事場面メタ認知尺度は、探索的因子分析後、確定的因子分析を行ない、2 因子構造 14 項目となり、それぞれ【モニタリング】【メタ認知的知識】とした。職業性ストレスは高次因子分析を行なった結果、【精神的疲労】【身体的疲労】の 2 つの高次因子にまとまった。**相関分析** 相関分析の結果、メタ認知因子とジョブインボルブメント因子に相関が見られ ( $r = .23 \sim .34$ ) メタ認知因子と仕事のパフォーマンスにも相関が見られた ( $r = .33 \sim .38$ )。一方、職業性ストレス因子は、メタ認知因子と負の相関 ( $r = -.15 \sim -.27$ )、ジョブインボルブメント因子とも負の相関が見られた ( $r = -.17 \sim -.31$ )。**ジョブインボルブメントとパフォーマンスの関係にメタ認知が与える影響** “ジョブインボルブメントは直接的な影響だけでなくメタ認知を媒介しても仕事のパフォーマンスを向上させる”という仮説に基づき、共分散構造分析によるパス解析を用いて探索的なモデルの検討を行なった。

【仕事熱心】は直接パフォーマンスに影響を与えるだけでなく、【メタ認知的知識】を媒介してパフォーマンスに正の影響を与えていることが示された。一方、【仕事没頭】は仕事のパフォーマンスに負の影響を与えることが示された。仕事満足度を介すると仕事のパフォーマンスにより大きく正の影響を与えることが示された。**ジョブインボルブメントと職業性ストレスの関係にメタ認知が与える影響** “ジョブインボルブメントは直接的な影響だけでなくメタ認知を媒介しても職業性ストレスを低減させる”との仮説について、共分散構造分析によるパス解析を用いて探索的なモデルの検討を行なった。【仕事熱心】は【精神的疲労】に直接的な負の影響があるだけでなく、【メタ認知的知識】を媒介して【身体的疲労】にも負の影響を与えることが示された。さらに仕事満足度を介すると、【メタ認知的知識】から仕事満足度を介して【身体的疲労】【精神的疲労】両方に負の影響があることが示された。